

2024年 富田林市立図書館から  
中学生のあなたへ

## 夏のおてがみ

勉強、クラブ、習い事、夏休みでも忙しい毎日。  
たまには本でも読んで新たな発見しませんか？



### 『夏に、ネコをさがして』

西田 俊也／作  
徳間書店

佳斗は亡くなったおばあちゃんが住んでいた家に引っ越してきました。その家には、おばあちゃんがかわいがっていた外ネコのテンちゃんがいて、だんだん佳斗になついてくれるようになります。しかし、しばらくするとテンちゃんは姿を見せなくなります。心配になった佳斗はまだなじみのない町をテンちゃんを探して歩き回ります。

### 『いただきます！からはじめる おさかな学』

鈴木 允／著  
生駒 さちこ／イラスト  
リトルモア



海に囲まれた日本には、お寿司など世界にほこるおいしい魚文化です。しかし、最近はとれる魚が少なくなっていたり、海のゴミが増えていたりしています。豊かな海と、おいしい魚を将来につなげていくにはどうすればいいのか？「おさかな学」を通して海と魚っておもしろい！ということを学んでいきます。



### 『空の手』

新井 けいこ／作  
立原 圭子／絵  
偕成社



奏楽は、小学校に入学する頃から空手を習い、稽古に励んでいた。幼馴染の航太を何度も誘うが、航太はすでにピアノを習っていた。ところが小学4年生の夏休み、中学生にからまれた事をきっかけに、航太は空手を始め、奏楽はやめてしまう。中学生になり、テニス部に入った奏楽だが、空手部が気になって仕方がない。

### 『その絵ときたら！』

新しい絵本の時代をつくったコールデコット』  
ミシェル・マーケル／文 バーバラ・マクリントック／絵  
福本 友美子／訳  
ほるぷ出版



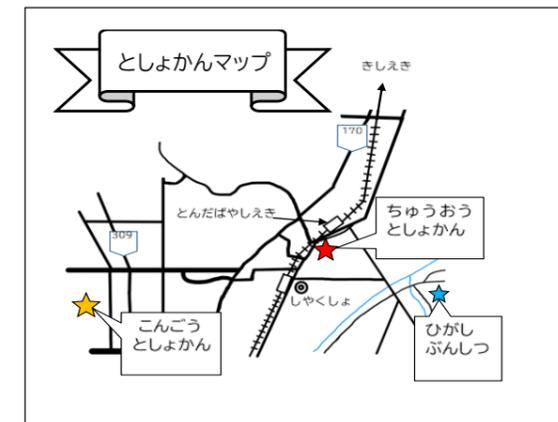
ランドルフ・コールデコットは19世紀後半のイギリスで、絵本に新しい時代をもたらしたと言われている挿絵画家です。コールデコットの絵には、ユーモアと、はつらつとした動きで物語を引き立てる力があります。伝説の挿絵画家の生涯を絵本でふり返ってみましょう。この本にはコールデコット自身が描いた絵もいくつかのっています。さがしてみてくださいね。

### 『はじめての宇宙旅行ガイド 1 ISSに泊まる旅行』

寺薗 淳也／監修 フレーベル館



民間人も宇宙に行けるようになり、身近になった宇宙旅行。それでも、日帰りツアーの費用は約3000万円、10日間のISS滞在ツアーは約50億円、宇宙に行くための訓練も数日必要です。ともあれ、宇宙旅行に夢を馳せ、まずはこの本でシミュレーションを試してみませんか？知っておきたい基礎知識や、渡航体験者の話も楽しめます。



### 『すごいグラウンドの育て方 阪神甲子園球場のひみつ』

金沢 健児／著  
Gakken



高校野球でも使われる甲子園球場の裏側を見てみよう。グラウンドの芝は一年中緑色をしています。その裏側ではたくさんの方が手入れをして、選手がけがをしないように工夫しています。水やりには、球場近くの井戸水を1日15トンも使います。身近な野球場にも数えきれない工夫があり、驚くことがたくさんちりばめられています。

### 『絵で見て楽しい！ はじめての落語』

櫻庭 由紀子／著  
三遊亭 楽松／監修  
すばる舎



落語とはひとりの人が座ったままで、多くの登場人物を演じ分けてお話をする、昔からある芸能です。この本には落語の内容の説明や、登場人物の名前の秘密、落語家になるにはどうすればいいのかなどがイラスト付きでわかりやすく書かれています。落語を聞いたことがない人も、きっと興味がわいてきますよ。

## 『いろんなところにかめわにとかけ』

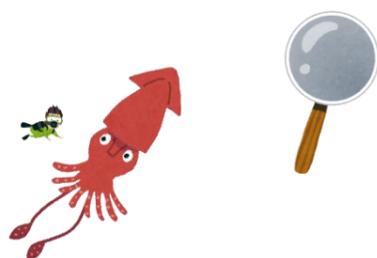
ブリッタ・テッケントラップ／絵  
カミラ・ド・ラ・ベドワイエール／文  
小野寺 佑紀／訳  
講談社



みなさんは「は虫類」って知っていますか？  
は虫類とは、毛や羽が無く、体がうろこか骨の板、もしくはその両方でおおわれている生き物のことを言います。この本では、は虫類であるかめとわにととかけについてくわしく知ることが出来ます。どこに暮らしていて、何を食べているのかなどを知り、かめとわにととかけ博士になりませんか？

## 『世界の不思議と謎について 知っておくべき100のこと』

竹内 薫／訳・監修  
ジェローム・マーティン（他）／文  
フェデリコ・マリアーニ（他）／絵  
小学館



人間は、疑問を持ち、それを発見・解決することで文明を発達させてきました。みんなが学校で習う内容も、過去の人達が発見してきたものです。この本には、きっとみんながまだ知らない、答えを聞いたら「へー」と感心するようなことが、100個も書かれています。ぜひ、この本を読んで、疑問を持って答えを見つけてみて下さい！

## 『夏のサンタクロース ～フィンランドのお話集～』

アンニ・スヴァン／作 ルドルフ・コイヴ／絵 古市 真由美／訳  
岩波書店



フィンランドで読みつがれてきた13の童話が、1さつにおさめられた本です。妖精や魔物が登場するお話のほかに、胸がきゅんとなる愛のお話も。北欧の自然の表現が豊かで、読むと空気のおいさや動物の鳴き声が聞こえるようです。モノクロのさし絵も洗練されていて、描かれたのが百年も前だとは驚きです。

## 『絵で旅する国境』

クドル／文 ヘラン／絵 なかやま よしゆき／訳  
文研出版



国境は国と国との境界です。この本では、その国境を色んな視点から、文章と絵で説明しています。国境は出会いの場所であり、色々な争いが起こりやすいところです。地図上では見える国境ですが、目に見えない空や大地、海の中にまで国境線はあります。周りを海に囲まれている日本だと気づかない、国境のことが分かる本です。



## 『イチからつくるラーメン』

奥村 彪生／編 高部 晴市／絵  
農山漁村文化協会



ラーメンは、現代の日本人にとって国民食といえるくらい身近な食べ物です。ラーメンについて調べていくと、ひとつの食文化がべつの国や地域に伝わることで、どのように変化し、同化していくのかが、よくわかります。ぜひみなさんもこの本を参考に、自分の好みの味、好みの具で自由に改良して、いろいろな味のラーメンづくりにチャレンジしてみてくださいね。



## 『パップという名の犬』

シル・ルイス／作 さくま ゆみこ／訳 評論社



子犬のパップは、突然、見知らぬ土地で置き去りにされてしまう。そんなパップを仲間として迎えてくれたのは、野良犬のフレンチ達だった。仲間は共に生活する中で、生きるための術や人間のおそろしさ、そして、犬と人間の絆など沢山のことを教えてくれる。

パップ達の波乱万丈な生涯が、パップ自身の目線で書かれている物語です。

## 『はねるまゆを追いかけて』

谷本 雄治／文・写真  
文研出版



虫や植物が大好きな作者。普段から虫を観察するために、田んぼや里山に出かけています。ある日の観察中、地面を跳ねる、直径3ミリ程の、緑色をした植物の種のようなモノを見つけます。「こいつ、いったい何者なんだ？」植物なのか、虫なのか？作者の好奇心から、根気強く観察を続けることで解明していきます。



## 読み継がれてきた名作

## 『100まんびきのねこ』

ワンダ・ガアグ／ぶん・え  
いしい ももこ／やく  
福音館書店  
1998年



おじいさんは、おばあさんのために一緒に暮らすねこをさがしにでかけます。丘の向こうにたくさんのねこがいました。おじいさんは、ねこをたくさん連れて帰りました。おばあさんは、そんなに飼えないと言います。どの子にするかとねこたちに決めさせると、ねこたちは大げんかを始めました。はたして一緒に暮らすねこは決まるのでしょうか？